

市内景気動向調査結果

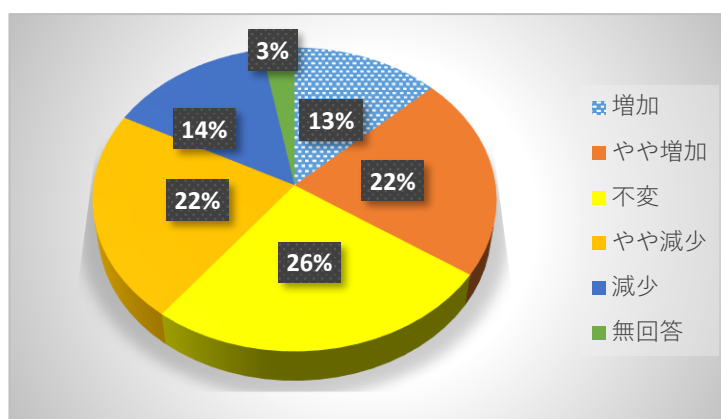
この調査は、第3四半期（昨年10月から12月）と前年の同期間（3ヶ月）を比較し当商工会員より回答いただいたものです。

| 回答数 | 建設業 | 製造業 | 運輸業 | 卸小売業 | サービス業 | その他 |
|-----|-----|-----|-----|------|-------|-----|
| 139 | 28 | 21 | 12 | 33 | 32 | 13 |

※その他は、回答数が少なかった不動産業、金融保険業、

1. 売上高はどう変化したか。

| | |
|------|-----|
| 増加 | 18 |
| やや増加 | 30 |
| 不変 | 36 |
| やや減少 | 31 |
| 減少 | 20 |
| 無回答 | 4 |
| 合計 | 139 |

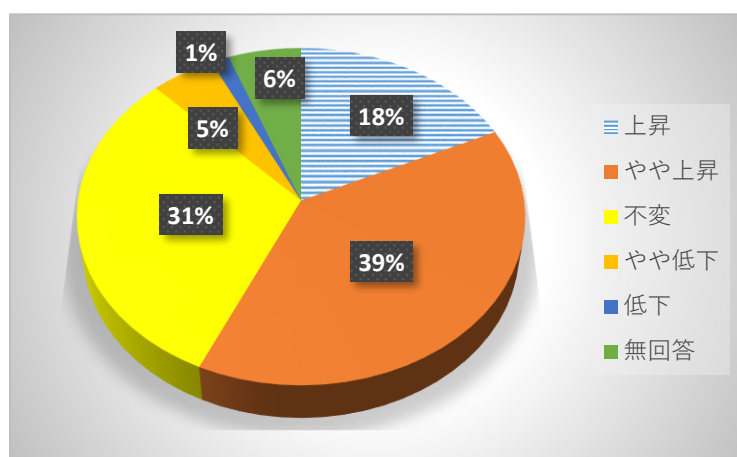


【コメント】

- 増加・やや増加が、第2四半期では49.3%であったが34.5%に減少。やや減少・減少が27.2%から36.6%増加した。
- 業種別では、卸小売業の悪化が著しく売上が増加・やや増加が8件に対し、やや悪化・悪化が18件。次いで運輸業では増加・やや増加が4件に対し、やや悪化・悪化が7件となった。建設業は増加・悪化がともに9件であった。
- サービス業は、売上が増加・やや増加が13件で、やや悪化・悪化が6件と他業種と比較して好調であった。製造業も増加が悪化を上回る結果となった。
- 消費増税の影響を受けやすい業種と少ない業種で二極化した。
- 依然として人手不足による売上への影響もあった。また、バス事業者建設業では少雪の影響も受けた。

2. 仕入単価はどう変化したか。

| | |
|------|-----|
| 上昇 | 25 |
| やや上昇 | 54 |
| 不変 | 43 |
| やや低下 | 7 |
| 低下 | 2 |
| 無回答 | 8 |
| 合計 | 139 |



【コメント】

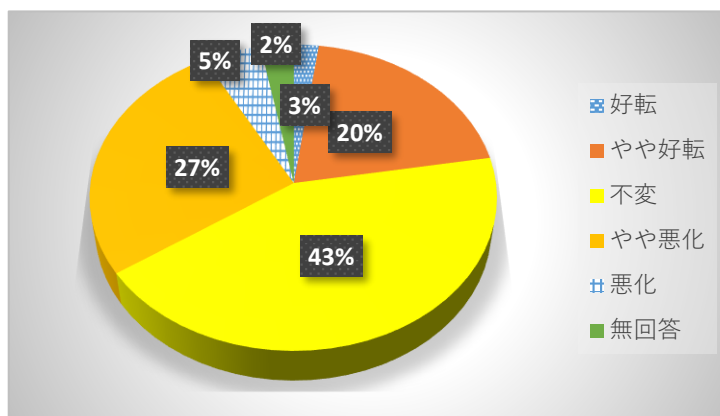
- 上昇・やや上昇が約57%と依然として高い水準にあり、消費増税とともに経営を圧迫する要因となっている。
- 上昇・やや上昇は、製造業が約76%で、運輸業、建設業、卸小売業とともに

60%を超える結果となった。また飲食業の回答が5件あり全てが上昇・やや上昇であった。

- 人件費や燃料代の高騰などの影響も大きかった。

3. 採算について

| | |
|------|-----|
| 好転 | 3 |
| やや好転 | 28 |
| 不変 | 60 |
| やや悪化 | 37 |
| 悪化 | 7 |
| 無回答 | 4 |
| 合計 | 139 |

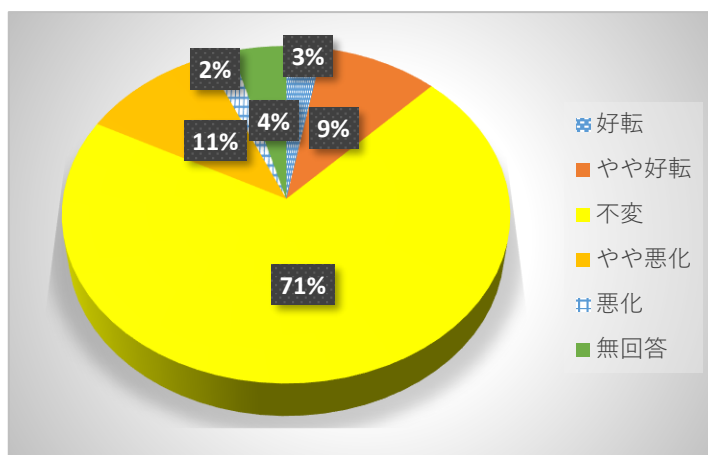


【コメント】

- 好転・やや好転が約22%、不変が約43%、やや悪化・悪化が約31%で第2四半期と比較すると、好転も悪化も減少し不変が16ポイントほど上昇した。
- やや悪化・悪化の業種別では、運輸業が一番高く約83%、次いで卸小売業が約51%、製造業が約42%で仕入価格の上昇が採算性の悪化に繋がった。

4. 資金繰りについて

| | |
|------|-----|
| 好転 | 4 |
| やや好転 | 13 |
| 不変 | 98 |
| やや悪化 | 15 |
| 悪化 | 3 |
| 無回答 | 6 |
| 合計 | 139 |

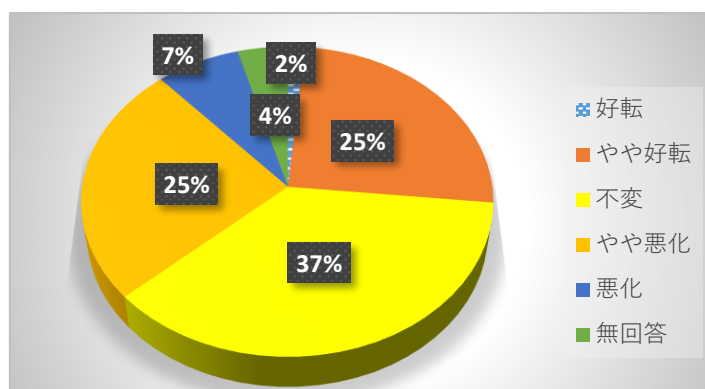


【コメント】

- 第2四半期と比較して、好転・やや好転が11ポイント減少、不変が10ポイント上昇、やや悪化・悪化が4ポイント減少であった。
- 採算性の悪化が長期化してくる業種では、今後資金繰りに注意を払う必要がある。

5. 業況について

| | |
|------|-----|
| 好転 | 2 |
| やや好転 | 35 |
| 不変 | 51 |
| やや悪化 | 35 |
| 悪化 | 10 |
| 無回答 | 6 |
| 合計 | 139 |

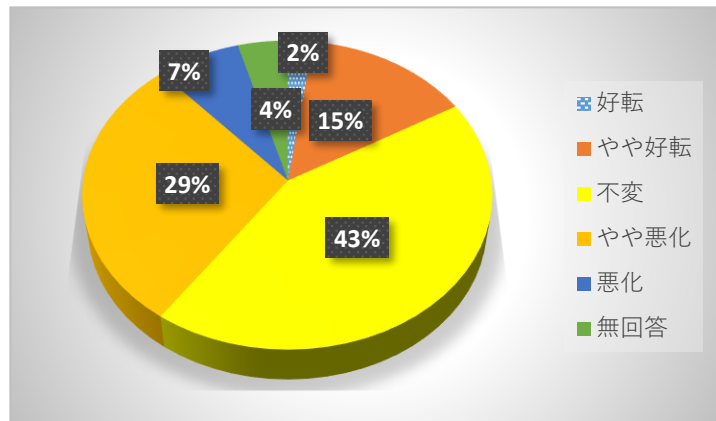


【コメント】

- 第2四半期と比較して、好転・やや好転が13ポイント減少し、悪化が5ポイント上昇した。
- 業況については全体的に悪化傾向にある。

6. 今後3ヶ月間の業況について

| | |
|------|-----|
| 好転 | 3 |
| やや好転 | 20 |
| 不変 | 60 |
| やや悪化 | 40 |
| 悪化 | 10 |
| 無回答 | 6 |
| 合計 | 139 |



【コメント】

- 好転・やや好転が約17%で第2四半期から12ポイント減少し、不変が12ポイント増加した。
- 消費増税の影響があったと回答した方が予想よりも少なかったが、直近のGDPでは経済対策の効果が余りなく、5%から8%に増税した時期と同様に6%以上の落ち込みがあり、予想以上に悪化しているのではないかと懸念されている。
- 新型コロナウイルスの発生で、インバウンドの激減、輸入資材等の不足による生産活動停滞などにより、経済活動全体の縮小が懸念され先行きが見えない状況となっている。
- 特にインバウンドを対象とした事業所では、資金繰りに窮することが予想されるため、新型コロナウイルス関連の融資制度等を早急利用する必要がある。

■ 回答事業所からのコメント

【経営状況に関するもの】

- ・ 燃料単価上昇やインバウンド利用客の減少及び雪不足によるスキー客の減少が想定されます。
- ・ 消費税UPのため、買い控えが影響している。また、高齢者が車を手放すケースが目立つ。
売上げが上がった分仕入・人件費の上昇が業況をはばむ
- ・ 建設業の市場は上向きですが、越冬工事は少なく雪もないため冬期需要については減少傾向のため
- ・ 中国の固形廃棄物の輸入規制が様々な場面に波及していること。
- ・ 台風被害→増税で、全国の中古車が少なく、相場も上がっており、仕入が厳しい。なんとなく持ちこたえている感じ。
- ・ ボールパーク関係の受注やTPP、FTAの影響で忙しく仕事量も多いです。
- ・ 製品の高度化に伴い、仕入単価が上昇した
- ・ クチコミ、ご紹介でお客様が増えました。
- ・ 各種のイベントや建設需要が増えた為
- ・ 前年同期に太陽光の大きな工事収入があったため。今年同期との差が出たが、1年間通しての売上高は特に変わらなかった。
- ・ 海外からのバス利用観光客の落ち込み（韓国中心）。バスの運転手不足で稼げない。

- ・ 例年になく、発注が見送られ、2月～3月の工場操業が落ち込む
- ・ 事業量の減少。プロポーサル競争の激化。
- ・ キャッシュレス手数料、仕入上昇、設備老朽
- ・ 仕入先からの値上連絡が多い。特に石油・鉄鋼製品。働き方改革により営業日が減少、人がいないため仕事がこなせない状態になっている。
- ・ 日本経済の景気低迷に追い打ちをかけた消費増税が業績に影響を及ぼしていると考えます。
- ・ 外国人の観光減
- ・ ロコミが増えているように感じます。
- ・ 同系店、深夜営業店が増加（来客数減少）。仕入れ金・人件費の高騰による利益減少。10月からの増税分は店が負担の為利益減少。
- ・ （Q3～5）→コスト増（原材料、外注費など）による。（Q2、6～7）→価格によって検討を見直す、断念する客が増えた。（これからも増えそう）
- ・ 当社販売先の私立幼稚園で、幼児無償化が10月からスタートしたため、一時的にキャッシュ不足（12月上旬）となった。10月、11月分の学費がまとめて12月に園から支給される制度のため。その結果受注動向が一時的ににぶった。
- ・ 現在インフルエンザが流行しているので、その分売上げが上がっています。中国でコロナウイルスが発生し、日本にも影響がもっと出て来ると、更に商材が売れていくと思います。
- ・ タカトシランドのテレビ出演後、売上が大きくアップして現在にいたっております。
- ・ 燃料費が上昇傾向にあるため。
- ・ 建設業のため、工事完成時期にバラツキがあるので前年同期比では差異が起きる。
- ・ 取引先、顧客数に対し、従業員数が不足気味
- ・ 少雪の為、人員及び除雪関連機器の維持費だけが加算されて行く。人手不足の為、受注を増やす事が容易ではない。
- ・ 1～3月期公共工事の発注が減少する為
- ・ 生産品目の増加や原料・資材費の価格交渉等により採算は好転したが、輸送費の上昇や業界の基準をクリアする為の設備投資もあり、今後は厳しい状況になると考えられる。
- ・ 工営住宅の営繕工事が役所の予算の関係で無くなり、事業を縮小せざるを得なくなった。
- ・ 前期からの繰越物件の減少によるもので、今年度一過性のもの。来年度は好転を見込む。
- ・ 受注量の増加と賃金の上昇により、売上がやや増加傾向。技術者の需要が多くなり助かります。
- ・ 取扱い製品（荷物）の性質がら、太陽光発電関係の工事も終了に近づき、製品搬入も減った為
- ・ 10月は特に、昨年の震災特需の影響でマイナス。その他は大きな変化はない。このまま暖冬なのか、雪が降らない方が良い感じはするが、先になってみないと分から
- ・ 異業種の参入、決済業務の構造変化、高齢化により来客数の減少が止まらないため。
- ・ 今後の民営発注状況が読めない。
- ・ 人手不足、消費税率引き上げによる駆け込み需要後の反動で減少（建設需要）。五
- ・ 輪期間中の工事調整の為、建設・土木の敬遠先送り。
- ・ 10月から12月は売上げは大変でしたが、1月～3月は仕事がないので、売上げ及び資金繰りが悪化すると思われます。
- ・ 燃料費（軽油等）の値上がりによる輸送費のコストが上がりつつある。
- ・ 消費増税等による値上でタイヤ売れず。
- ・ キャッシュレスで5%還元店である為売上げは若干増えました。
- ・ 一昨年は台風、地震により減少したので今回は増となった。
- ・ 天候による農作物の減収。
- ・ 国の積算単価上昇によりやや好転するものと予測しています。
- ・ 売上は伸びているが、雪不足により、例年より催しも減っており、見込んでいた仕事がわずかに減少した。（さほど大きな影響ではない）

- ・ 今だに震災の影響が出ております。
- ・ 鉄相場価格の下落により売上は前年比マイナス。支出の削減により経常利益は前年比若干のプラス。
- ・ 建築業界は物件が減少。
- ・ 灯油の販売数量が減った。
- ・ 公共事業の発注が前年より後半に集中した為10月～12月前年より上昇した。1～3月は除排雪の受注減少。燃料の上昇。
- ・ 民間ユーザーは増税に伴う多少の動きはあったものの、企業関係は様子見状態が続き大幅な好転はなく、原材料の高騰が利益率に影響している。
- ・ 令和元年景気動向景況としては令和元年に完成工事にカウント出来ない大型工事で繰越工事になる物件が多く今期の売上は利益はやや悪化となり、4月以降からやや好転に向け変化する予定。
- ・ 消費増税による買い控、及び経済の停滞感。“増税”という空気の重たさが2%以上に感じられる。
- ・ 消費税の増税より売上がやや減少。客の買い控えで当社が5%還元対象店でない事などが理由か・・・(?)。今後も好転するとはあまり思わない。
- ・ 年々お客様が増え、やや上り調子の傾向です。
- ・ 単価の設定が昨年度より更に低くなった為
- ・ 対象に成るお客様の高齢にて、死亡で客数が減った。
- ・ 売上高につきましては、前年と比較して17%増加しましたが、原価も多少上っていますので、全体ではやや好転していると思われれます。
- ・ Q7→季節指数の高い冬季用品が少雪の為に大きく売上が落としている。春の農繁期と増税で大きく売上が伸びることが出来たが、12～2月は非常に厳しい。
- ・ 委託業務ですが、売上高は減少しています。明るい材料として12月に配達単価のアップ(16%)になるが、数量ベースでは減少していますので、相対的には売上高は現状維持と考える。
- ・ 高齢化と人員不足による、売上げの減少。

【消費税による影響】

- ・ 車両が売れなくなった。
- ・ 請求について大変やりにくいです(分けないとならない)。8%と10%の混在は面倒です。
- ・ 駆け込み需要は少なく、増税後にそのまま売上が減少してしまった感じです。消費者還元事業も自動車販売には不利でメリットを感じません。
- ・ 商品原価の値上げにより利益の減少がある。
業種としてまだ影響は出ていません。
- ・ カード決済が増えた為。手数料の手前、やや売上げが落ちた(微少)
- ・ 9月に駆け込み需要があったものの、その後の反動と共に平準化された。
- ・ 消費税はいただいているので2%売上げが増えました。仕入はないので、あまり関係はありません。
- ・ 競合各社の価格足並がそろった(良)。販売先の倉庫在庫が減った。配達回数が増した(悪)。
- ・ 9月は売上がかなり増加しましたが、9月以降物量がすっかり止まってしまっている。
- ・ 国策として消費増税に伴う景気対策事業として次世代住宅ポイント制度が実施されておりますが、全国的に効果はないようです。
- ・ 増税になっても売値に転嫁出来ないことが多い。
- ・ これまではあまりなかったが、これから影響が出るのではないかと予想。消費意欲の減退、節約志向などで。
- ・ 単純に製品購入代金総額が2%上昇する事は購入意欲に影響はある。
- ・ あります。グッズの売上が下がってきています。
- ・ 多少売上げ10月、11月と伸び悩みましたが、12月からは影響はなく現在も売上げ伸びております。
- ・ 2019年9月に荷主先にて駆け込み需要があり、10月にその分の反動(マイナス)があった。

- ・ 本社においては100%転嫁できている。
- ・ 民間の年間管理がある為、今年度は消費税を据置にしました。
- ・ 増税後、住宅リフォームの受注量が激減した。
- ・ 材料・仕入・賃金支払が高くなった。
- ・ 若干消費の冷え込みを感じます。安価な商品が売れている傾向がある。
- ・ キャッシュ化にフォーカスすると現金流通のコスト負担を本業収支で賄いきれず、新設された手数料があり、預金者に受け入れられているか実感を持ってない。
- ・ 一般住宅向けには駆け込み需要後の反動で仕事が減少したと思われる。
- ・ まず物が売れないです。
- ・ 自分の仕事の立場で言えば会計の事務処理に以前より時間がかかるようになりました。
- ・ 増税により建物等の評価額が上昇したため、火災保険を中心に保険料が上がってしまった。
- ・ ユーザーの動きに多少ありましたが、特にはなし。
- ・ 良い点は実感として感じる事が出来ない。悪い点は消費増税により建設関連は金額が大きいため発注を控える。
- ・ 売上の減少。可処分所得が毎年の様に減額されている現状では個人消費は伸びないし税収は増えない。自民党も財務省も経済のシロウトばかり、トリクルダウン理論なんかありえない。
- ・ 顧客保険料口座引落とし手数料は代理店負担になるので、増税されると当然負担増（悪い点）になります。
- ・ 多少の買い控えがある様に思える。売り上げは減少。
- ・ キャッシュレス決済が増えた。
- ・ 消費増税分の単価の上乗せは厳しい。
- ・ 10月、11月の売上がガクッと減った。
- ・ 来客の日数が長く成り、売上げに影響有り。
- ・ （良い点）一時的にまとめ買い等で売上を作る事が出来た。高額品（エクステリア、暖房）の駆け込み需要が多かった。（悪い点）増税後の消費の落ち込み。特売等も効果が薄い。工事関連も施工が遅れご迷惑をかけていた。
- ・ 特にありませんが、カードの支払いが多くなりました。
- ・ かけこみもなく変わらない。
- ・ 増税前の駆け込み需要の反動で売上ダウン